

コンサントラシオン地ヴァル・レ・いたら、小さなて、我々のテの参加者のよう11番だと言う。ピーヌを駆るジとして、1976年界選手権(WRC)ヨッティとの初RX-7でプライラス優勝を獲得車でモンテに挑は疎遠になってコーバーがミニを立ち上げ、チームンとポール・イして参戦したが、喫した。97年に初めて日本車以外が私の最後の

ところが、ひょんなことから、先述のRX-7がマツダのR&Dセンターに当時のままの姿で保管されていたのを発見。これをレストアして、ヒストリック・モンテカルロ・ラリーに出場しようという話が持ち上がったのだ。クラス優勝からちょうど30年目となる2009年に、初めてヒストリック・モンテを走ってみると、まさに70、80年代に走っていたWRCモンテの復刻版といえる内容だった。ルートの長さのみならず、スペシャル・ステージの場所までほぼ当時のまま。周りを埋めるのは当時を彷彿させるクルマたちではあるが、実際にWRCモンテを走った個体そのものというはごく少ないよう。さらに我がチームは、ドライバー、コ・ドライバーのみならずサービスマンもほぼ同じ

“30年熟成モノ”ということで、現地でもずいぶん注目を浴びた。この時、ルシアンというフランス人に、現地でのサービスを手伝ってもらったのだが、彼は以前ラニョッティ氏が在籍していたレーシングチームで働いていたとかで、主催者側のゲストで来ていた氏を紹介してくれた。思っていたとおりとてもフランクで、気さくな有名人だった。

77年には日本人初完走をし、79年には日本人初のクラス優勝をした私だが、日本車が初めて3位入賞したのは72年にラウノ・アールトネン/ジャン・トッドが駆ったダットサン240Z。2011年のヒストリックで私が乗ることになったのは、この240Zを忠実にコピ

ーしたレプリカ。ちょうどそのアールトネン氏もミニで参加していて、氏からも「良くできてるね」との言葉もらった。

初代セリカでの出場となった昨年は、大雪のモンテとなった。スタート地点に選んだトリノから雪で、我がセリカのみならず、多くの参加車が痛々しい姿でのフィニッシュとなった。

さて今年のモンテだが、久々にミニでの参加となった。ドライバーは件のRX-7を走らせた中川一さん。「最後のモンテにするので乗って欲しい」との要請で、68年式のミニ・クーパーSは、彼が2009年に現地で親しくなったデンマーク人からのレンタル。彼が友人とサービスマンも務めてくれるという。

仏南東部の街ヴァランスまで、1,000km弱を走るパルクール・コンサントラシオンと呼ばれる第1ステージ。例年に増して暖かいモンテカルロをスタッドレスタイヤを履いてスタートしたのだが、翌朝、ヴァランスも近くなったサン=ジャン・アン・ロワイヤンの山を上り始めたときにトラブル発生。目の前が一面の銀世界に。路面の雪はしっかり凍結していて、スタッド無しでは速く走れない。下ったタイム・コントロールに遅着となりペナルティを食らってしまったのだ。

翌日の第2ステージからは、スタッドタイヤを履いて、スペシャル・ステージをこなしながら険しい山中を走り抜けて行く。ヴァランスに帰還する直前、ローヌ河に沿ったトゥルノンの街の広場に置かれたタイム・コ



ントロールで、時間待ちで並んでいた我々のミニの小さなスライド窓からラニョッティ氏の笑顔が覗いた。氏はランスからのスタートだったのだが、我々を見つけて、わざわざ挨拶に来てくれたのだ。ヴァランスからは、全車がナンバー順にスタートしていて、今回、ミニに因んでナンバー“32”をもらった我々の4分後ろの36番の白と赤のアルピーヌA110がラニョッティ氏だったのだ。再会を喜んだのは言うまでもない。氏はたいへんな人気者で、クルマを止めるたびに観客に取り囲まれる。

次のステージの、とあるスペシャル・ステージでは、雪道を全開で下って行くと、左コーナーの橋に先行のシトロエンDSが刺さっていた。コースを塞がれ、1分以上もロスして大きな減点をもらったりしながらも、12か所のスペシャル・ステージを終え5日ぶりにモナコに帰着。残すは険しい裏山を深夜に高速で周回する、厳しい最終ステージであるエタブ・フィナル。最終第15スペシャル・ステージは、あまりにも有名なチュリニ峠を越える33kmだ。今回、心配していたドライバーの体力がやはり持たず、ペース配分を工夫しながらこなしここまで来たが、人生最後のチュリニを楽しんでもらうためにも、全開で行けるよう最後の叱咤激励。ようやく走り切り、未明のモナコ・ハーバーにフィニッシュ。待ち構えていたサービスマンが用意してくれていたシャンパーニュは、グラン・クリュの味がした。



Rallye Monte-Carlo Historique

This is a re-issue event of the good-old "Monte". Over three hundreds pre-1980 rally cars are seriously driven around icy French Alps. It's decorated by former WRC Monte winners participating the event.



ヒストリック・モンテへ参戦するなら

To participate Historic Monte.

ラリーの起源と言われ、100年以上の歴史を誇るモンテカルロ・ラリー。欧州各地からスタートして、本スタート地に集合する“コンサントラシオン”という長いステージを走った後、10数か所のスペシャル・ステージでスピードを競い、数日間かけてモナコにフィニッシュする。クラシックなスタイルを長いあいだ保ってきた。ところが、90年代後半になると、WRCはFIAの安全施策やTVの放映都合優先のため、夜間走行無しでトータル3日間、というルールに縛られることとなってしまった。そこで、昔からのスタイルのモンテも残したい主催者が始めたのが、正式名“Rallye Monte-Carlo Historique”と言われる、ヒストリック・モンテ。今年で16回目となるこれは、WRCモンテの1週間後に行われ、長いコンサントラシオンを含めた昔のままのスタイルで、1週間にわたって行われる。因みに、今年の場合、選べるスタート地はグラスゴウ、ワルシャワ、コペンハーゲン、ランス、バルセロナ、そしてモンテカルロで、最長行程となるグラスゴウからのスタートを選ぶと計3,100kmを走破することとなる。

参加資格がある車両は、1980年以前のモンテに出場したことがあるモデル。ラリーコンピューターを始めとした電子機器の装着は許されない。徹夜(長い場合は二晩)のコンサントラシオンを終え集合した後は、10数か所のスペシャル・ステージをこなしながら、モナコを目指し、深



夜のチュ...
ストリック...
正確には「...
えられた指...
る。しかし...
内の数か所...
ナーでの...
が多くなり...
に「早い...
ジは、長い...
毎年、300...
らチャレン...
また、毎年...
しており、...
が走った4...
アールトネ...
ド・アンド...
ニコラ、81...
のブルーノ...
に4勝した...
エントリ...
ートだと約...
なオーガナ...
ブルと思わ...
を送るため...
ーが必要だ...
のチームと...
ただし、...
は入困難...
ド・ラリー...
い目に遭い